

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270201702		
法人名	特定非営利活動法人 おりおせ福祉の森		
事業所名	グループホーム あっとホーム黒髪		
所在地	〒857-1152 長崎県佐世保市黒髪町6515-27 (電話)0956-32-5888		
評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年12月12日	評価確定日	平成20年2月4日

【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤(専任)6人, 非常勤 4人, 常勤換算 8.6人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨・木造 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有( 円) ㊦		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ㊦	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	6名	要介護2	2名		
要介護3	0名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 79歳	最低 73歳	最高 86歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐世保中央病院・加瀬内科胃腸科クリニック・沖永歯科医院、山本歯科医院
---------	------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

NPO法人設立時より「職員をぞんざいにしていたら入居者も大事にできない」を念頭に置かれ、入居者のためにも職員を育てる事を実践されている。若い職員が、入居者やホーム共同生活のかかわりの中で成長し、福祉の担い手として法人内の事業所で活躍されている。又、入居者・職員・管理者がそれぞれの持てる力を出し合って共同生活を営んでおり、固定観念にとらわれることなく気付きなどを討論し、法人理事の見守り・誘導の下、実践され、思いやり溢れるホームである。又、災害ボランティア活動の取り組みもされており、今年は新潟の数箇所の事業所を研修・慰問され大きな学びを得られている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、職員の言動に余裕がなく職員ペースになりがちだった入居者との関わり方が、入居者一人ひとりを大事にした入居者ペースのサービスの提供に改善されており、入居者・職員の言動に穏やかさがある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に全職員で取り組まれ、そのプロセスを通して職員・仲間の考えや理解度が掌握されたと同時に、各自、自己の業務の振り返りにもなっており、真摯に受け止め業務に反映されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議が諸条件を理由に現在まで開催されておらず、取り組みの不足は否めないが、開催へ向けての条件整備を地道にされている事は評価に値する。入居者の状況に応じた対応策や、ハード面では開催場所をホーム外の地域の公民館に確保するなど開催を目標に取り組みされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	入居者が家族に伝えたホームへの要望や、家族の気付きなど、家族から職員へ直接伝えられている。伝えられた事は記録・伝達され、全職員の情報の共有とケアの統一に反映されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	「植物を育てる事で命を伝えたい」のスローガンも掲げられており、【今出来る事を始めていこう】と、入居者・家族・職員で植物を苗から育て、株分けして鉢植えにした物を地域の交流施設や団体に、入居者と一緒に届けるなどの取り組みもされている。又、在宅高齢者の、家族外出時の一時預かり的な事や、家庭内暴力の緊急避難場所として困っている方の受け入れをされている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム設立のきっかけは、理事長が民生委員をされていた中で感じられた不足の部分を活かせるサービスの提供が、ホーム運営要綱と合致した事にあり、それに賛同した仲間が集まったのスタートである。入居者の「人格・人権の尊重」を理念のキーワードとされており、地域に開かれた家庭的なホーム作りを目指されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「環境」をキーワードにし、全職員が「言葉かけを大事にしよう」をスローガンに理念の実践に取り組まれている。その時々々の場面に応じた言葉かけを中心とした支援は、食事介助や希望の表出など生活の様々な場面で活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「植物を育てる事で命を伝えたい」のスローガンも掲げられており、【今できることを始めていこう】と、入居者・家族・職員で植物を苗から育て、株分けして鉢植えにした物を地域の交流施設や団体に、入居者と一緒に届けるなどの取り組みもされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に全職員で取り組まれ、そのプロセスを通して職員・仲間の考えや理解度が掌握されたと同時に、各自、自己の業務の振り返りにもなっており、真摯に受け止め業務に反映されている。前回、職員の言動に余裕がなく職員ペースになりがちだった入居者とのかかわり方が、入居者一人ひとりを大事にした入居者ベースのサービス提供に改善されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が諸条件を理由に、現在まで開催されておらず取り組みの不足は否めないが、開催へ向けての条件整備を地道にされている事は評価に値する。入居者の状況に応じた対策法や、ハード面では開催場所をホーム外の地域の公民館に確保するなど開催を目指して取り組まれている。		

グループホーム あっとホーム黒髪

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険に地域密着型が導入される以前は、県内広域の入居者を受け入れられていた。「困っている人程、手助けを必要としているし、手助けをしないといけない」という法人の考え方が、運営に反映されている事は地域密着型になっても継続されている。ホームの献身的な取り組みに伴う苦勞・努力は他に知られることなく消化されている。		介護相談員の派遣事業や健康面を踏まえた栄養ケア計画の立て方など保健師等の専門性を活かした指導を仰ぐなど、市の多機能性である相談窓口を活用し、ホームでの抱え込みを市との連携に繋げられる事が望まれる。多種多様なパターンを知ってもらう事は保険者にとっての問題提起にも繋がるのではないかと。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事や日常生活の写真にアフレコを入れた物や、ホーム生活の様子など、手紙形式の文面に写真を添えている【あっとホーム便り】が、毎月発行・配布されている。又、入居者から家族と話したいなどの訴えがあれば、家族に連絡し、入居者の意向に沿えるよう支援されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が家族に伝えたホームへの要望や、家族の気付きなど、家族から職員へ直接伝えられている。伝えられた事は記録・伝達され、全職員の情報の共有とケアの統一に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム業務を通して法人内職員の育成をされている。新人・新任職員は、基本的に現任の職員と一緒に入居者に関わってもらい、入居者の受け入れ状況を見極めてから、一人での対応に移行されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修受講支援や資格取得などスキルアップの支援もされている。又、自己研鑽の取り組みとして【何でもノート】に職員の気付きなどを記入し、それに対して全職員で検討し、実践やモニタリング内容もプロセスがわかるように1ページ1気付きで記録されている。又、馴れ合いやパターン化防止策として観察を通して原因究明・改善に活かされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流のあるグループホームと交換研修されており、2日間の体験研修を通して、サービスの質の向上や業務の見直しに反映されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人の安心・安定に繋がるよう、これまでの生活環境に配慮した取り組みをされている。姉妹で入居されている場合は、入居者の反応など、様子を観察しながら、同室で就寝してもらうなどホーム環境に馴染んでもらえるような当面策の支援もされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>リビング空間の中で集いを好まれる入居者には集団レクリエーションの提供をされ、対話を好まれる入居者には話し相手をされ、独り居を選ばれる入居者には環境の提供をされている。「入居者と一緒に遊んだり、楽しんだりしている。」という職員の言葉が現場を反映している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者によって希望や意向を伝えやすい環境や場面があり、職員はその事を理解した上で対応されている。入浴時に話される方や事務所で声高く伝えられる方、夜、職員と二人の時間を見つけて話される方などタイプは様々ではあるが傾聴・受容に努められている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画を作成するときに見落としがちな、本人や家族の希望を意識して計画作成に努められている。又、入居者の言動には意味・背景がある事も理解されており、アセスメントの掘り起こしなどや行動分析など見えない部分も反映させた入居者本位の介護計画でもある。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的に3ヶ月に1回の見直しをされているが、職員の気付きや入居者の状況変化なども考慮して、入居者の現状に即した随時見直しもされている。又、本人・家族に同席してもらいモニタリングや介護計画の作成をされており、対応・対処のための目標ではなく、本人の希望にスポットライトを当てた目標設定に努められている。</p>		

グループホーム あっとホーム黒髪

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎月21日のお寺参りや神社の祭事など、入居者の生活習慣の継続で、特別の外出支援もされている。又、地域に対しては、家族外出時の一時預かり的な事や、家庭内暴力の緊急避難場所として困っている方の受け入れをされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医の継続受診と送迎の支援もされている。又、かかりつけ医と協力医療機関との情報の共有・連携体制作りは出来ており、安心・適切な医療受診の支援に努められている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族・医療機関・職員で充分話し合い、本人・家族の希望に沿って、ホームと医療機関が連携した支援を提供されている。ホームの指針として入居者に最後まで人間らしく、安心して穏やかに過ごしてもらえ支援を行うという事を伝え支援に繋がられている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	パソコンでも情報管理されており、職務・権限に応じた情報取得操作の為のパスワード導入で厳重な個人情報の管理に繋がられている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本的な生活の流れに、入居者一人ひとりの経験や趣味を取り入れて、入居者と一緒に有機栽培に精を出したり、マーじゃんやトランプなど集団で楽しんだり、集団生活の中に入居者が個々の楽しみ、力を発揮できる環境を提供されている。		

グループホーム あっとホーム黒髪

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が得意料理を披露される場面作りも取り入れられ、食材選びや買い出しも、入居者主体となるよう支援されている。又、食事介助も入居者と対面して、コミュニケーションと表情・様子観察など併用した和みのある食事風景である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	散歩の後の声かけなど、入居者の入浴パターンやタイミングの取り方を把握した支援をされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活・社会背景をサービス提供にも取り入れられており、集団性や個性の提供も時代背景に応じた内容で、環境を大事にした支援を心がけられている。来年の教育委員会主催の体育指導員集会上に配布する鉢植え植物3,000鉢と粘土細工の鉢飾り作りを入居者の能力に応じた関わり方で参加出来るよう支援されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームから離れた所で有機栽培の野菜を育てられており、手入れや収穫に出かけられたり、定期的に寺社参りなどの外出の支援をされている。又、1階廊下の掃きだし窓からテラスへ出ることができ、鉢植えやテーブルセットなどで憩いの場所作りもされており、外気浴や日光浴の支援もされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの実践をされており、外出傾向のある入居者の居室には[外出時のお願い]で職員への声かけ、門限、夕食時間厳守などの内容が掲示されている。又、外出傾向など察知したら抑制するのではなく、本人の様子を見ながらタイミングを見計らって声かけなどの対応をされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害ボランティアの研修も兼ねて、新潟の被災地の事業所を入居者・法人代表・職員・管理者など5人で慰問されて、自然災害の脅威と復興の大変さを実感され、災害ボランティアとして実働に繋がる法人全体の取り決めの話し合いをされているが、被災した場合の災害対策には至っていない。		災害時の手順や持ち出し品リスト、連絡関係機関の把握など災害時のガイドラインに沿ったホームの取り決めの明文化でライフラインの確保に繋がる取り組みが望まれる。

グループホーム あっとホーム黒髪

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者向けの固定観念を排除して、入居者の嗜好を取り入れた献立作りをされている。又、入居者の食習慣にも配慮され同一食群内で代替されるなど栄養バランスの配慮もされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には若い職員のインテリアセンスの飾り付けなどを取り入れられており、躍動感や明るい雰囲気を出している。又、窓越しの人の行き交う様子や山・田畑などから生活感や季節感など自然な形で取り入れに繋がっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベッドや家具・調度品は、入居者の現状と好みに応じた配置で、入居者一人ひとりの個性や趣味、好み、身体状況など窺い知ることができ、ほとんどの入居者が主に寝室として利用されている。		